

Eat Well, Live Well.



味の素株式会社（2802） 2021年3月期第一四半期実績および 業績予想の修正

常務執行役員
中野 哲也

2020年7月30日



I -1. 2021年3月期 : 第一四半期サマリー

FY20 第一四半期業績サマリー

売上高 : 2,479億円 (対前年実績 94.0%)

事業利益: 338億円 (対前年実績 122.5%)

1. 売上高 : **減収**

- ・調味料・食品、冷凍食品、ヘルスケア等のすべてのセグメントで減収。

2. 事業利益 : **大幅増益 (増益額 : 62億円)**

- ・製品ミックス改善、マーケティング費用等の減少により、大幅増益。

(内訳)

項目	事業利益への影響 (億円)	内容
売上減による売上総利益 (GP) 減	約▲60	—
GP率向上によるGP額増	約+70	製品ミックス改善と、需給安定目的で特売を制限し値引きが減少したこと等でGP率向上。
販管費減	約+50	調味料・食品及び冷凍食品におけるマーケティング活動等の抑制で費用減。

【再掲】

FY20業績への影響（サマリー）

現時点で新型コロナウイルス感染症の終息時期は見通せず経済の先行きが不透明な中、以下の前提で業績見通しを策定しております。

1. 当社グループが事業展開をしている各国において、**第2四半期までに非常事態宣言やロックダウン等が解除されるが、同期間の経済活動等に大きな影響**を受ける。
2. **第3四半期から**経済活動等が徐々に回復していくが、**北米・南米等の一部地域では同感染症の第2波の襲来**により、継続的に影響を受ける



I -3. 2021年3月期 : 業績予想に反映したCOVID-19影響

FY20 COVID-19業績影響 (修正)

売上高 :▲ 約700億円 (対FY19実績 ▲約6%)

参考 (期首) :▲ 約760億円 (対FY19実績 ▲約7%)

事業利益:▲ 約150億円 (対FY19実績 ▲約15%)

参考 (期首) :▲ 約230億円 (対FY19実績 ▲約23%)

FY20 業績予想に反映した要素 (更新)

<7月以降に想定される影響> ○印:継続 ▲:変更

- (事業関連) ▲ 1.家庭用製品 (冷食、調・食) における巣ごもり特需の漸減と外食需要の段階的回復
北米は冷凍食品の家庭用が販売伸長継続
- 2.医薬用アミノ酸素材など在庫積み増し需要の反動
 - 3.製薬カスタムサービス顧客の開発計画の遅延
 - ▲ 4.飼料用アミノ酸の販売価格下落 (2Q~)
 - 5.スポーツイベントや健康診断の縮小・中止に伴う市場縮小の影響
 - 6.国・地域間の移動制限による観光客需要減少
- (構造強化) ○ 1.海外の事業縮小・売却プロセスは遅延も引き続き継続

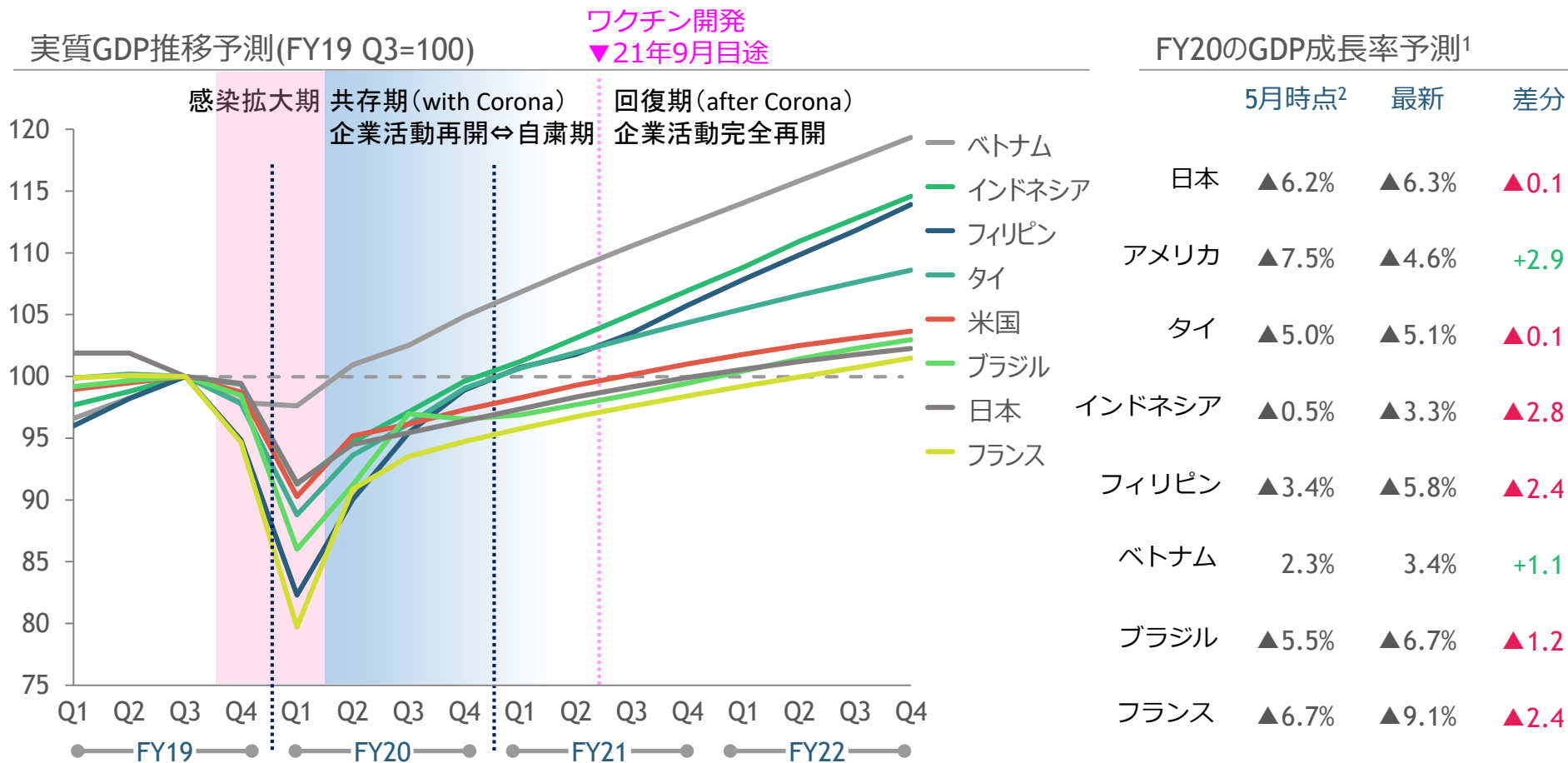
<今後予想する影響> … 2Qまたは3Qに発生
米国、ブラジルにおける第2次感染爆発と外出制限

<業績予想に反映していない不透明な影響>
失業者増加と収入減少によるデフレ圧力 vs グローバル供給不足とインフレの綱引き



I -4. 2021年3月期 : COVID-19各国経済への影響見通し

主要各国における実質GDPの推移予想 (更新)



1. 四半期ベースのGDP予測に基づき4月~翌3月を年度として集計し、FY20とFY19を比較して算出

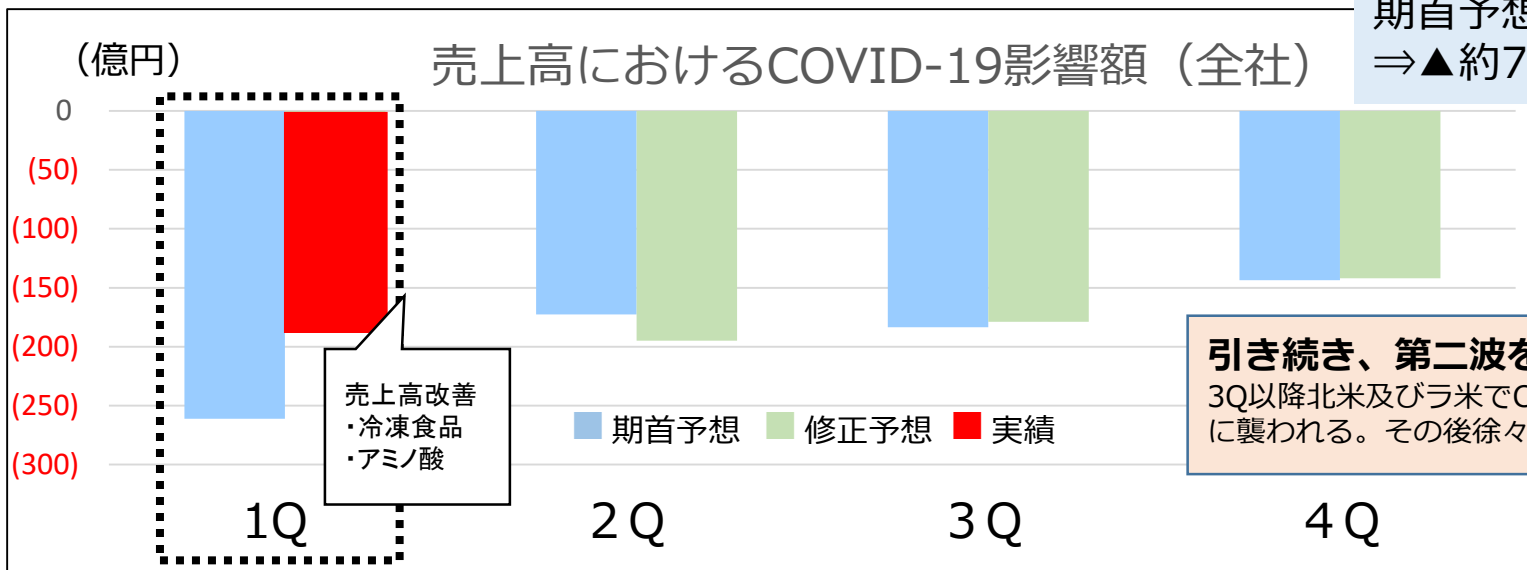
2. 5/25付決算説明資料における各国GDP予測数値に基づく成長率

Note: ベトナムを除き季節調整済み数値に基づき算出

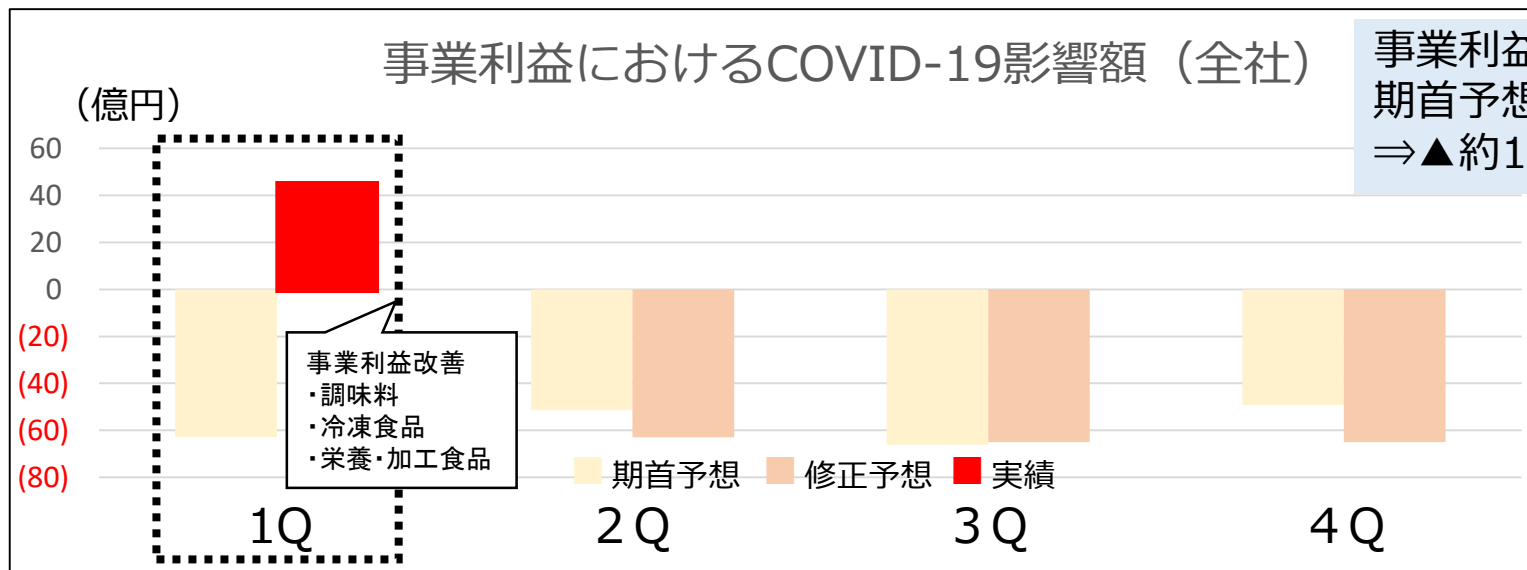
Source: Oxford Economics

I -5. 2021年3月期 : COVID-19の業績予想への影響

売上高年間影響額
期首予想▲約760億円
⇒▲約700億円に修正



引き続き、第二波を想定
3Q以降北米及びラ米でCOVID-19の第二波に襲われる。その後徐々に収束へ。



事業利益年間影響額
期首予想▲約230億円
⇒▲約150億円に修正



I -6. 2021年3月期 : 業績予想

COVID-19共存期の厳しい環境は続くものの、生活者が求める“健康的な新しい生活”のうねりをとらえ、「食と健康の課題解決」を通じ、ワンチームでASVの実現に全力を尽くします。

1. 売上高：対前年**減収**（第一四半期のCOVID-19影響差異を反映し、上方修正）
 - ・海外の調味料や栄養・加工食品、冷凍食品がCOVID-19影響で減収。
 - ・各国感染状況を踏まえつつ、柔軟に販売施策を追加することで、減収幅を最小化していく。
2. 事業利益：対前年**減益**（第一四半期のCOVID-19影響差異に加え、一部事業の状況を反映し、上方修正）
 - ・海外の調味料や栄養・加工食品、アミノ酸がCOVID-19影響で減益。
 - ・適切なマーケティング投資と全社コスト削減努力を継続し、減益幅を最小化していく。
3. 親会社の所有者に帰属する当期利益：対前年**増益**
 - ・その他の営業費用が減少。

(単位：億円)	FY20		差額 (A) - (B)	FY19 実績 (C)	差額 (A) - (C)	前年比 (A) / (C)		FY20	FY20	FY19
	修正予想 (A)	期首予想 (B)					修正予想	期首予想	実績	
売上高	10,570	10,480	90	11,000	▲430	96%	売上高事業利益率	8.5%	7.4%	9.0%
事業利益	900	780	120	992	▲92	90%	ROE	5.9%	4.1%	3.3%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	320	225	95	188	131	169%	ROIC	3.9%	3.0%	3.0%
							ROA（事業利益 ベース）	6.7%	5.8%	7.2%
							EPS	58.37円	41.02円	34.37円



I -7. 2021年3月期 : 当期利益

期首予想から改善も、COVID-19影響で事業利益減益。
構造改革費用は当初予定通り発生の見通し。当期利益は増益を予想。

(億円。▲が損。)	FY20 修正予想 (A)	FY19 実績 (B)	前年差 (A)-(B)	概要
売上高	10,570	11,000	▲430	
事業利益	900	992	▲92	
その他の営業収益/営業費用net計	▲285	▲504	219	
減損損失	-	▲349	349	
その他	▲285	▲155	▲130	構造改革費用を計上（▲約160億円）
営業利益	614	487	126	
金融収益/金融費用net計	▲14	0	▲14	
税引前当期利益	600	487	112	
法人所得税	▲228	▲203	▲25	税率：FY20修正予想 38%
当期利益（含む非継続事業）	371	289	81	
親会社の所有者に帰属する当期利益	320	188	131	
非支配持分に帰属する当期利益	51	101	▲50	

Eat Well, Live Well.



- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には監査を受けていない概算値を含むため、数値が変更になる可能性があります。
- 本資料の金額は、切り捨てで表示しております。